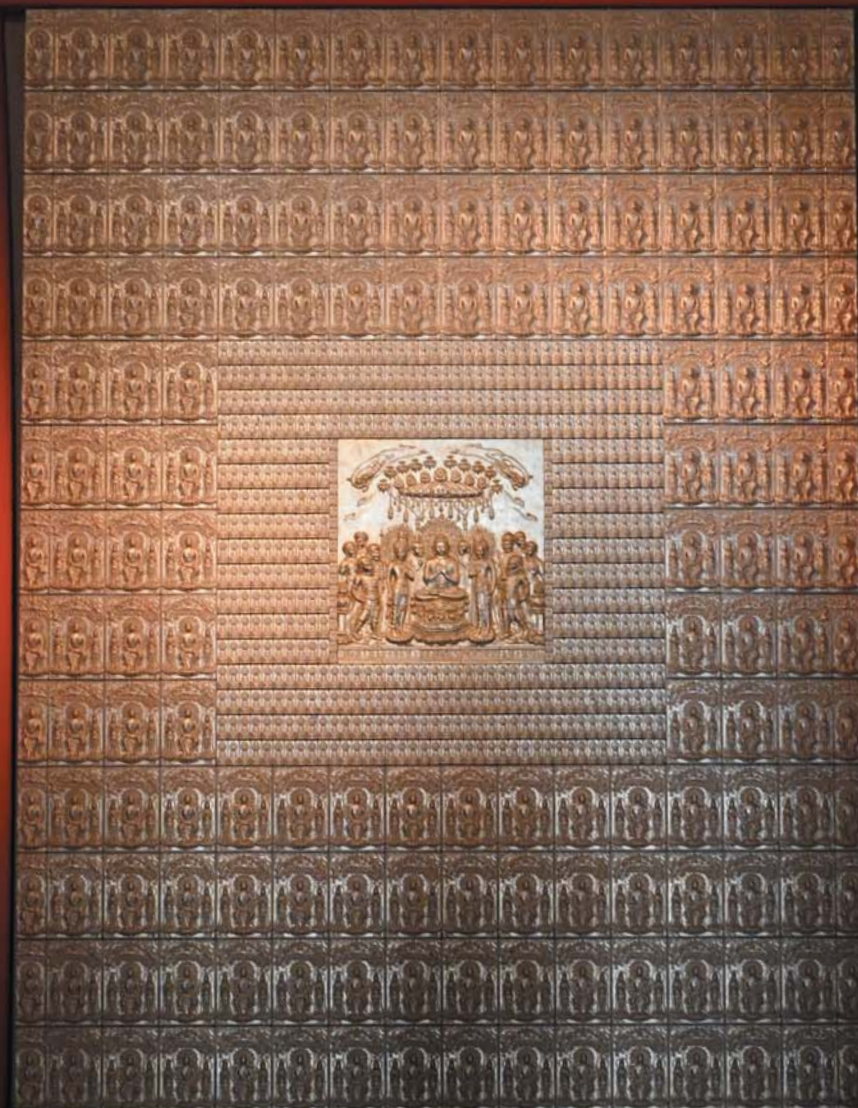


甦る。夏見廃寺

夏見廃寺展示館では金堂の一部を実物大に再現。709個のせん仏（仏像をレリーフにした焼き物）を組み合わせた縦2.8m、横2.1mの金色の壁は圧巻



みんなの力で名張の宝を未来へ

名張川を見下ろす丘陵地に、「夏見廃寺跡」があります。ここに飛鳥時代後期から奈良時代にかけて建立された昌福寺があったとされています。長いあいだ雑木林で、土の中から瓦や仏像を彫刻した焼き物などが出てくることから「ミステリースポット」として地元知られていました。

昭和初期に本格化した発掘調査によって、その内容は徐々に明らかに。山の斜面を巧みに利用し、上段に「金堂」と「塔」、下段に「講堂」がある、当時としては非常にダイナミックな配置が判明しました。都に匹敵する高度な建築技術と、当時の仏教文化の粋がこの地に息づいていたことを示す、極めて貴重な遺構です。平成2年には、その価値が認められ国の史跡に指定されました。

今号は、この素晴らしい歴史資源を舞台に、その魅力を広く発信しようとする人々をご紹介します。

名張にある数多くの宝を、私たちみんなの力で磨き上げよう。

その積み重ねが、このまちをより輝かせる未来へとつながっていくはず

関文化生涯学習室 63-7892

遺跡が間近に迫る。



上空から見た夏見廃寺跡

「AR」で挑む文化財の復元

中央公園の一角にある夏見廃寺跡でスマホをかざすと、かつての「昌福寺」が目目の風景に立体的に現れる。この最新の技術「AR（拡張現実）」を手掛けたのは、瓦職人の桑山さんです。

桑山さんは、神社仏閣などの瓦屋根施工に携わる中で、専門的な調査記録が膨大で一般には伝わりにくいと感じ、「この貴重なデータを、CGなどで再現してもっと分かりやすく届けるこ

とができれば」と考えたそう。そこで、仕事をしながら建築の専門学校へ通うこと。特に「BIM（建築の設計ソフト）」に興味を抱き、「すべての部材に歴史の意味を持つ文化財こそ、柱や瓦一つ一つに情報を紐づけられるBIMの技術が役に立つ」と直感したとい

ます。伝統建築の知見と最新の設計技術が組み合わさり、より精巧な「AR」を作成できるようになっていった桑山さん。全国に先駆けた取組でもあり、「将来の学術資料としても使える精度で、教育にも役立てることができる」と胸を張ります。

「地元には何も無い」を覆したい

「地元愛がある人が増えるほど、その地域は豊かになっていくのだと思います。だから、「地



夏見廃寺「AR」（上写真イメージ）の楽しみ方



①アプリ「STYLY」をダウンロードしQRコードを読み込み→②夏見廃寺跡にある金堂跡階段と講堂の案内板をまっすぐ結んだ交点で起動

元には何も無い」を覆していきたい。そんな熱意が桑山さんを突き動かします。

「夏見廃寺は、歴史好きや専門家にとって重要な遺跡だと認識されていますが、一般の人にはまだまだ馴染みが薄い。その一方で、発掘調査で得られている情報は十分あったので、当時の建物の圧倒的な規模感や迫力を甦らせる舞台に選びました。「AR」を通じて、このまちの歴史や奥深さを体感してほしい。それが、名張への誇りを持つ第一歩になれば嬉しいですね。そう熱く語ってくれました。



せん仏

出土したせん仏などは夏見廃寺展示館（中央公園内）に展示。詳しくは市HPで



語りたくなる！夏見廃寺①

当時の最先端の文化や技術が名張に

飛鳥・奈良時代の名張は、都である大和（畿内）と、伊勢や東国（畿外）を結ぶ交通の要所でした。この地が当時の最先端拠点であったことを物語るのが、夏見廃寺の金堂跡から出土した「せん仏（埴仏）」です。表面に金箔が施されたタイル状の仏像で、かつて寺院内は黄金に輝く荘厳な空間であったと推察されます。

精巧なせん仏が大量に出土する例は全国的にも非常に珍しく、都に匹敵する最高峰の文化や建築技術がもたらされていたといえます。



桑山 優樹さん

瓦職人としての伝統建築の知見と最新の設計ソフトを掛け合わせ、昌福寺の姿を蘇らせた

建築の設計ソフトで復元した昌福寺（夏見廃寺）



昨年7月にオーディションによって選ばれた小学1年生から高校1年生までの「ひめぼたる」と呼ばれる15人の子どもたちが、「ひめみこの舞」を披露。今後の活動はInstagramで。舞の魅力を感じる動画も近日公開予定

古代の風をまとう。

「ひめみこの舞」を初披露

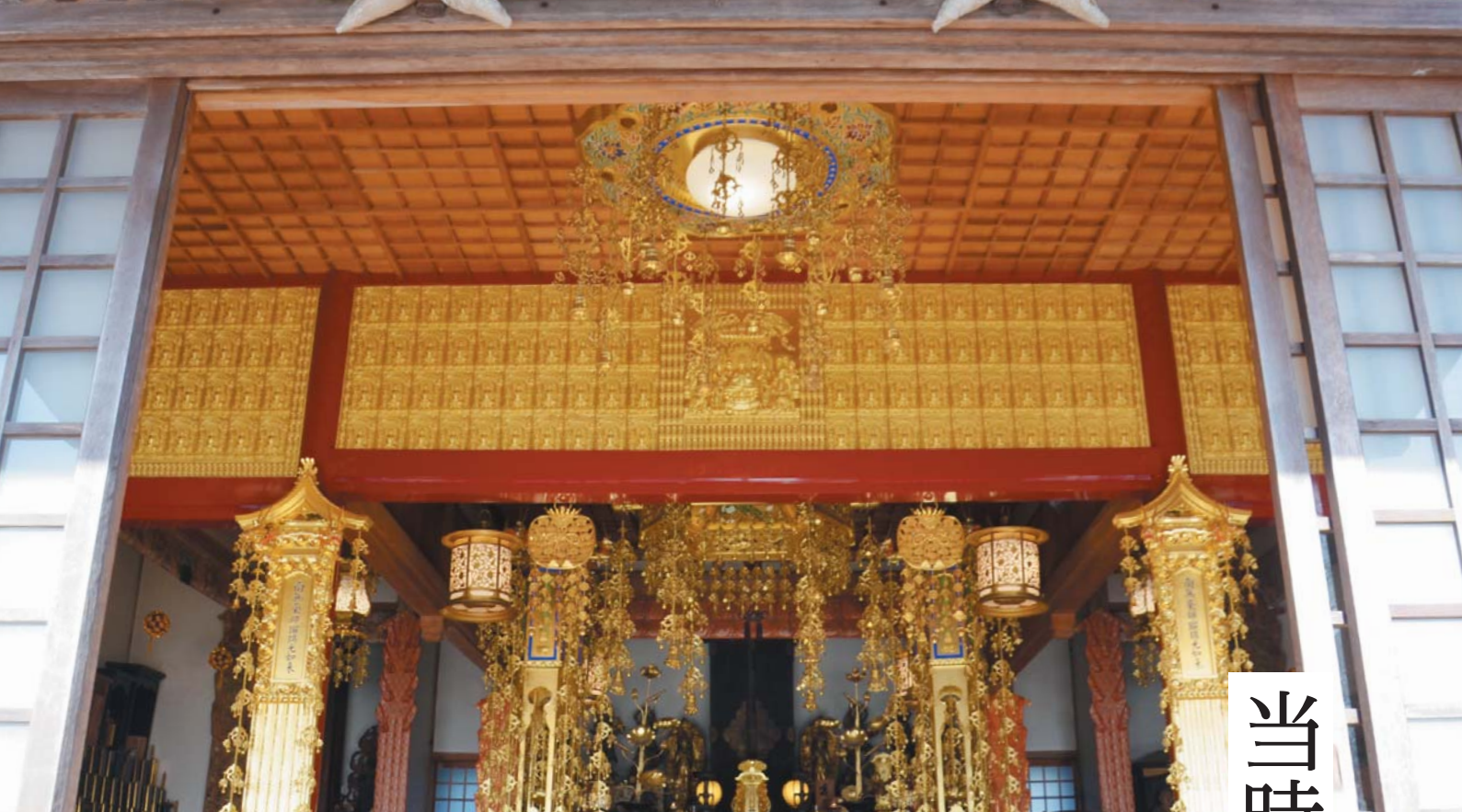
夏見廃寺跡で、4月4日に繰り広げられた「ひめみこ春まつり」。「隠（かく）夏見ひめぼたるプロジェクト」の主催で、今年で3回目。注目を集めたのは、15人の子どもたちによる「ひめみこの舞」の初披露でした。舞を創作したのは、長年伊勢神宮で雅楽に携わってきた岡さんです。「夏見廃寺が伊勢神宮の初代斎王・大来皇女ゆかりの寺だと知り、運命的なものを感じました」と振り返ります。舞の楽曲には、古代の「神楽音階」を取り入れ、大来皇女が詠んだ和歌に節をつけました。指導にあたっては、伊勢神宮の習わしである録音・録画を一切しない「口伝」という形式を採用。「現代のダンスとは異なる独特の『間』やリズムに戸惑いながらも、子どもたちは驚くほどの集中力で習得して



岡 茂男さん
元伊勢神宮 雅楽部 副楽長
伊勢神宮雅楽部での経験を生かし「ひめみこの舞」を創作



くれました」と、その成長に目を細めます。資料が少なく、特に苦労したという衣装は、天女のような優美な羽衣を取り入れ、大来皇女の気品あるイメージを表現しました。「子どもたちが『ひめぼたる』として活躍することで、夏見廃寺や大来皇女が多くの人に知られるようになれば」と語る岡さん。古の記憶が、舞とともに名張の地に鮮やかに甦っています。



当時の輝きを今に。

福典寺の本堂にせん仏を復元

夏見廃寺跡から名張川を挟んだ場所にある福典寺。かつて夏見廃寺と同時代に同じ男山にあった小寺院を前身とし、深いゆかりを持つお寺です。福典寺では、令和5年から天武天皇をしのぶ法要「天武忌」を執り行っています。夏見廃寺の建立から1300年という節目を迎えた昨年、本堂に「黄金の壁」を復元しました。それは、夏見廃寺で出土したせん仏と同じ型で手作りされたもの。「当時の人が見ていた輝きを、今の皆さんにも感じてほしい」と、住職の坂東さん。金属プレスは使わずに、土を焼き、一枚ずつ金箔を施すという当時の製法にこだわり、構想から3年の歳月をかけて完成させました。



坂東 瑞祐さん
福典寺 住職
復元せん仏は土・日曜日のみ見学可。できれば事前予約を。詳細は福典寺 ☎ 63-1392



ジですが、あえて華やかに練り歩くことで、誰でも見て楽しめる場にしたい」と坂東さん。「天武忌」は今年も10月末に開催予定です。皆さんも、飛鳥浪漫を感じる特別なひとときを過ごしてみませんか。

語りたくなる！夏見廃寺③ 大来皇女にとって、やすらぎの地だった？！

壬申の乱の後、大来皇女が斎王として伊勢神宮に遣わされたのは、13歳という若さでした。その後、父・天武天皇が崩御すると、弟の天津皇子は後ろ盾を失い、謀反の罪で処刑されます。24歳の頃でした。斎王の任が解かれた大来皇女は都に戻りますが、その後の消息は分かりません。政争に明け暮れ、悲劇を多く生んだ飛鳥から遠く離れ、畿内と伊勢を結ぶこの名張の地は、大来皇女にとって父や最愛の弟の冥福を祈るのに、最もふさわしい場所であったのかもしれませんが。



天津皇子を偲んで詠んだといわれる大来皇女の歌碑が廃寺跡に

語りたくなる！夏見廃寺② 天皇を弔うために建立した珍しい寺

醍醐寺本「薬師寺縁起」の記述から、昌福寺（夏見廃寺）を建てたのは、天武天皇（飛鳥時代）を父に持つ大来皇女（661～701年）と分かっています。壬申の乱で天武天皇が即位すると、天皇に代わって伊勢神宮に仕える初代「斎王」として、国家の安泰を祈る役割を担いました。686年、天武天皇が病で崩御すると、大来皇女は父を弔うために夏見廃寺（昌福寺）を建立することを発案しました。天皇を弔うために建立された寺は全国的にも大変珍しいと言われています。



名張川を見下ろす丘陵地に昌福寺（夏見廃寺）があった

